

§1 活動方針

前年度に引き続き、日常携わっている設計作業の中で問題となった事例を、一會合一テーマの原則のもとに、各種基準の比較を踏まえながら検討討議を行い、鋼橋技術に従事する一線の技術者に情報交換の場を与えることとする。また昭和61年度から新たに鋼橋の設計に寄与する具体的な成果を上げるべく、テーマを絞った具体的活動を実施していくこととした。

§2 各会合記録

第8回 昭和61年5月7日 場所川崎製鉄(株) 出席者25名

内 容 1. 鋼橋脚隅角部の設計法について
2. 道路橋溶接部の疲労について
③「隅角部の設計法(簡易式の検討)」の実施とワーキンググループの結成

第9回 昭和61年6月25日 場所東京大学 出席者25名(他オブザーバー2名)

内 容 1. 鋼橋におけるプレートガーターと補剛板の設計

第10回 昭和61年7月24日 場所東京都北区教育会館 出席者25名(他書記1名)

内 容 1. ケーブル定着部及びその付近の応力について
② 隅角部設計法ワーキンググループよりアンケート依頼

第11回 昭和61年9月17日 場所日本橋梁株式会社 出席者25名(他書記1名)

内 容 1. 引張ボルトの実用計算について

第12回 昭和61年11月12日 場所新日本製鐵(株) 出席者27名

内 容 1. ケーブルの設計法について

第13回 昭和62年1月21日 場所早稲田大学理工学部 出席者22名

内 容 1. 鋼橋脚基部の設計法について

第14回 昭和62年3月18日 場所日本鋼管(株) 出席者22名

内 容 1. 鋼床版横リブと横桁か分離構造のときの横リブ、横桁の設計法

2. Uリブスリットのある鋼床版横リブの設計

3. 鋼床版の疲労に対する考え方